

【重点審議事項の論点整理について（教育・文化スポーツ常任委員会）】

重点審議事項	委員会における取組状況	主な論点	委員会における主な意見	備考
<p>「美の滋賀」の拠点整備とアール・ブリュットの振興について</p>	<p>令和元年5月24日 常任委員会 ・令和元年度中に策定、変更が予定されている計画等について</p> <p>令和元年6月26日 常任委員会 ・琵琶湖文化館機能継承検討懇話会の設置について</p> <p>令和元年7月23日 県内行政調査（やまなみ工房） ・障害のある方による芸術活動の現状について</p> <p>令和元年10月4日 常任委員会 ・(仮称) 滋賀県障害者文化芸術活動推進計画（骨子案）について ・琵琶湖文化館の機能継承検討懇話会の検討状況について</p> <p>令和元年11月6日 県外行政調査（沖縄県立博物館・美術館） ・施設の概要について</p> <p>令和元年12月13日 常任委員会 ・(仮称) 滋賀県障害者文化芸術活動推進計画（原案）について ・近代美術館再開館に向けた老朽化対策工事について ・琵琶湖文化館機能継承検討懇話会の検討状況について</p> <p>令和2年2月12日 常任委員会 ・「美の滋賀」の発信と琵琶湖文化館機能継承方針（原案）について</p>	<p>「美の滋賀」の拠点整備について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・琵琶湖文化館のあるべき機能については、新生美術館も含めてこれからどうしていくのかをきちんと示したうえで、話を進めていくべきではないか。 ・琵琶湖文化館で一番大切な視点は、文化財をどうやって守っていくかということであり、3つの美を一緒に見せようというこだわりは捨てるべきである。 ・文化財と他の美術品では全く質が異なることを認識して議論されたい。 ・「美の滋賀」と滋賀の美は異なるものである、新生美術館の凍結にあたって、どこまで立ち戻るかという議論があったことから、琵琶湖文化館の機能継承については、どこまで戻って議論しなおすのかをきちんと整理したうえで、県の方向性を示されたい。 ・今後を考えていくうえで、立地等については非常に大事な要件であることから、決定するプロセスはしっかりと明らかにされたい。 ・近代美術館と県民の距離が縮まり、自分たちの美術館という意識が高まるように、若者も近代美術館で作品を発表できる機会を設けられたい。 ・地域の財産である文化財を観光客の誘致にも生かし、地域を活性化するためにも、大型バスの止められる駐車場などの十分な敷地を確保されたい。 ・新生美術館の担うべき機能を近代美術館が担うということであれば、3つの美をどう表現していくかを先に検討するべきであるのに、それが置いてきぼりのまま進められている。進め方やスケジュールを慎重に検討していくべきではないか。 ・令和3年度に近代美術館の学芸職の館長を選任するということだが、方向性を決める段階で館長を決めておく必要があると思うので早く選任いただきたい。 	

	<p>令和2年3月2日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度滋賀県一般会計補正予算(第7号) <p>令和2年3月10日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滋賀県障害者文化芸術活動推進計画(案)について ・琵琶湖文化館機能継承方針(案)について 		<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化対策などそれぞれしないといけないことではあるが、中長期的なポリシーが感じられない。 ・2つの拠点を核に「美の滋賀」を発信するという議論は議会で行っていない。 ・琵琶湖文化館を新しい施設にするのであれば、埋蔵文化財センターも同じ文化財を扱う施設であり、一緒にすることも考えるべきではないか。 ・4月以降に副知事を総長にするということだが、4月からスタートするというのであれば、3月からでも取り組むべきである。 ・不確定な要素が多い中、今回、近代美術館の補正予算を判断しなくてはいけない状況となったことに不信感が生じている。体制やコスト、全体のコンセプトについて、来年度、美の滋賀の発信を再度検討する中でその先につながる議論が行われることを求めたい。 ・「美の滋賀」の発信の流れが大きく変わる2つの拠点に関する是非を議会として議論する場面もないまま進められたことに対して懸念がある。 ・「美の滋賀」の発信の基本理念は変わっていないと言われるが、新生美術館で代表的な3つの美を見せようとしたのが「美の滋賀」の発信の根本である。2つの拠点にするということは見せ方が変わっていることを認識すべきである。 ・2つの拠点で発信することで1つの建物で3つの美を見せようとしていた新生美術館を超えるものにしてほしいが、全体像が見えてこないため、大丈夫なのかという印象を受けてしまう。 ・来年度、滋賀県の文化芸術の方向性を大きく決める第3次滋賀県文化振興基本計画の策定が予定されている。第2次では「美の滋賀」づくりの推進を含めていたことから、来年度の委員会において議決案件とするか議論してはどうか。 	
--	--	--	---	--

		<p>障害者の文化芸術活動の推進について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化、芸術というものは舞台なども含めると幅広く、やっている方が主体的に頑張っていて、それを県や行政がサポート、応援していく視点のほうがいいのではないかと。 ・ 実効性のある計画にするためにも、市町と連携し、19市町が同じようにやっていけるようにされたい。 ・ 障害者の著作権と作者の保護が重要であるので、それについて分厚く取り組むべきである。 ・ 一緒に楽しめる講演や展示会の推進に向けて、施設のバリアフリーや費用負担の軽減は大事な施策として取り組まれない。 ・ 障害者アートはアール・ブリュットの中の一つであるということをきちんと明確にしておかないと、障害者アート自身もぼやけてくるように思う。アール・ブリュットと障害者アートが違うものであることがきちんとわかるようされたい。 ・ 2009年7月に滋賀県文化振興条例が全国的に先駆けてつくられて、10年が経過している。これだけ社会の要請も強くなってきたので、この機会に、文化振興条例自身をいろいろ見直してもらった方がいいのではないか。 	
--	--	--------------------------	--	--

<p>社会体育施設の整備について</p>	<p>令和元年6月26日 常任委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 琵琶湖漕艇場の設置および管理に関する条例の一部を改正する条例案 新県立体育館整備事業について <p>令和元年9月11日 常任委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害者のスポーツ推進に向けた県立スポーツ施設の取組状況について <p>令和元年9月11日 県内行政調査(安曇川高校)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国民スポーツ大会のウェートリフティング会場について <p>令和元年10月4日 常任委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 滋賀アリーナの設置および管理に関する条例案 他4件 <p>令和元年11月6日 県外行政調査(沖縄県沖縄市)</p> <ul style="list-style-type: none"> 多目的アリーナを活用したスポーツによる地域の活性化について <p>令和元年12月13日 常任委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 市町競技施設整備費補助金について 琵琶湖漕艇場改築工事の入札結果について 		<ul style="list-style-type: none"> スポーツ施設はスポーツだけをやる時代ではなく、県民が来たいと思えるイベントを行えることが民間のノウハウを活用するいいところである。いろいろな制限することのないよう、さじかげんをしっかりとっていただきたい。 施設の整備に遅れが生じるということは、地元選手を強化する拠点ができるのがおくれるということでもある。国民スポーツ大会は、地元の選手が活躍し、それをみて県民が喜び、勇気もらい、やってよかったと思えるようにしなければならないので、遅れることはしかたないが、選手が十分な形で本番を迎えられるよう、しっかりと目を配って、あらゆる手段を講じられたい。 所管が異なるスポーツ施設の現況や今後についても、文化スポーツ部としてしっかりと把握しておくことが必要である。 	
----------------------	---	--	--	--

<p>確かな学力と豊かな心を育む学校教育と障害のある子供たちへの支援の充実について</p>	<p>令和元年6月27日 常任委員会 ・湖西地域の県立高校の魅力化について</p> <p>令和元年8月9日 常任委員会 ・湖西地域の県立高校の魅力化について</p> <p>令和元年8月9日 県外行政調査 (京都府立医科大学病院) ・自治体から学習支援を受ける長期入院中の高校生の状況について</p> <p>令和元年9月11日 県内行政調査 (安曇川高校) ・湖西地域の高校の魅力化についての県民参画委員会</p> <p>令和元年10月7日 常任委員会 ・湖西地域県立高校魅力化方針(案)について</p> <p>令和元年11月5日 県外行政調査 (沖縄県議会) ・病弱者教育におけるICTの活用について</p> <p>令和元年11月13日 県内行政調査 (立命館守山中学校・高等学校) ・中高一貫教育の特色について (水口東中学校・高等学校) ・県立中高一貫教育校の取り組みと現状について</p> <p>令和元年12月16日 常任委員会 ・「これからの県立高校の在り方検討」の進め方について</p>	<p>高校の魅力化について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、高島地域の高校が選ばれない理由がわからないまま、教育委員会の思いだけで再編しようとしてもうまくいかないと思われるので、地域の人たちの意見やニーズをきちんと取り入れられたい。 ・ 高島の中学生に選ばれる高校にするためにも、子供たちや保護者にとって魅力のある学校づくりとなるような思い切った取り組みを早急に立ち上げられたい。 ・ 市民、企業、市教育委員会、市とも連携しないまま教育委員会だけで決めるような状況で責任が持てるのか。多くの皆さんの声を聴かないまま令和3年4月からスタートすることは不安がある。しっかりと現場の声も聞いて行われたい。 ・ 今は大学でも学部学科が細分化されており、高校も専門的にやっていくことが必要になってくると考える。やり方によってはものすごくいい学校になると思うので、ぜひきちんと取り組まれたい。 ・ 議員はそれぞれの地域を背負っており、地域の事情によく承知していることから、議員にも報告され、一緒になって進めていくようにされたい。 ・ 小規模校ならではの教育やそれぞれの地域での課題も明らかにしながら、課題のある高校には教員を手厚く配置するなど、手を打っていくことも必要である。 ・ 新しい教育、先生の働き方改革を進めていくのであれば、全国に先駆けて県立高校のクラスの人数を35人にすることも検討されたい。 ・ 県立高校の在り方を検討するにあたり、公立高校の役割や私立高校との関係性も考えていかななくてはいけない。 ・ 特色を持ったコースを設定していくのであれば、子供たちが何を学ぶことができるのかといったことがわかるよう、人材育成目標を明確にしてあげるべきである。 ・ 高島地域の高校の魅力化が実現できるよう、先生と設備の充実、十分な広報が行われることを期待する。
---	--	-------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・小児保健医療センター、療育部、守山養護学校の基本設計方針案について 令和2年3月11日 ・湖西地域県立高等学校魅力化の検討状況について 	病弱児の教育支援について	<ul style="list-style-type: none"> ・守山養護学校の整備においては、より先進的な事例を参考に、周辺整備、通院通学の動線、屋内屋外施設のユニバーサルデザイン、バリアフリー化に配慮されたい。 ・長期療養中の高校生への学生支援について、来年度から準備が整い次第、実施に移すとのことだが、初めてのことであり、しっかりと検証して実行されたい。 	
--	---	--------------	---	--